

2023年10月25日(水) 札幌バプテスト教会 祈祷会

本日の聖書箇所:ヨハネによる福音書 11:28~44 (口語訳:新約 158 頁)

- 今日は「ラザロが生き返る」場面です。ここでイエスさまが出会われた出来事は「死」でした。しかもそれは最愛の友(5、11節)ラザロの死でした。ラザロが葬られてすでに4日も経っていました(17節)。そして、人々がラザロの死を悼み残された家族を慰めに来ていました(19節)。
- ラザロには二人の姉妹がいました。マルタとマリアです。20~27節で、まずマルタとイエスさまのやり取りが記録されています。マルタはイエスさまに「**主よ、もしあなたがここにいて下さったなら、わたしの兄弟は死ななかつたでしょう。**」と訴えました(21節)。イエスさまの到着が遅れたことを嘆いたのです。これに対してイエスさまは「**あなたの兄弟はよみがえるであろう**」と言います(23節)。そして、終わりの日の復活を信じていることを表明するマルタに対して、「**わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。**」と言いました。今、目の前に立っているイエスさまこそが死で終わらない方でありました。イエスさまを信じる者は、たとえ死んでも生きるということです。復活とは、死なないことではなく、たとえ死んでも新しく生きるということです。
- マルタはマリアを呼びに家に帰ります(28節)。マリアは、イエスさまを見るなり足元にひれ伏しました(32節)。この「ひれ伏す」という言葉は「崩れ落ちる・倒れる」という強い意味を持ちます。ひどい悲しみのゆえに、マリアはイエスさまの足元で崩れ倒れたのです。マリアが倒れ込んで嘆き、一緒に来た人々も泣いているのを見て、イエスさまは「**激しく感動し、また心を騒がせ**」ました(33節)。「**霊において激しく息をし、自ら混乱した**」という別訳もあり、激しく乱れているイエスさまの姿がここに 있습니다。マルタとのやり取りの場面では冷静さを保っていましたが、ここに来て感情が溢れ出ているのです。そして「**イエスは涙を流された**」とあります。イエスさまが泣かれていることを描写する言葉は、新約聖書中でここでしか使われていません。「わっと泣き出した」という意味を持ちます。ラザロの死に対する悲しみが溢れ出たイエスさまの姿です。私たちと同じように、愛する人を失った痛みや混乱をあらわにし、涙を流して「共に乱れる」イエスさまがここにおられます。
- 「**ラザロを死なせないようには、できなかつたのか**」という声を背に(37節)、イエスさまは「**また激しく感動して**」墓に来られました。墓は石でふさがれ、死後4日でした。まるで死がすべてを捕らえ、絶望しかないように見えます。けれども、イエスさまは石を取りのかせ、天に祈り、「**ラザロよ、出てきなさい**」と大声で叫ばれました。すると「死人」は手足を布で巻かれたまま出てきました。
- その後不思議にも、人々の喜ぶ姿や奇跡の偉大さを強調するような描写はありません。「**彼をほどこいてやって、帰らせなさい**」というイエスさまの言葉で締めくくられます。つまりこのイエスの言葉が強調されているのです。死と絶望に捕らえられていたのはラザロだけでなく、そこに居合わせていた家族や、死を悼む人々でした。イエスさまは「**彼をほどこいてやって、帰らせなさい**」と言い、死者を解放し、死に支配され絶望に捕らわれる全ての人々をも解放してくださったのです。イエスさまは、死を悲しむ私たちに寄り添いながらも、絶望を貫く一筋の希望を示してくださるのです。(西本詩生)

《祈りのリクエスト》

- | | |
|---|--|
| ① 教会の伝道の働き・教会財政のために。 | ⑧ 弁当分かち合いプロジェクト(毎週金曜)。 |
| ② バプテストマ・入会準備中の方々。 | ⑨ 各神学校と神学生のため。 |
| ③ 入院／療養中／高齢で来られない方々。 | ⑩ 道内の教会(無牧師の苦小牧)、
ハワイ・オリベット教会[姉妹教会]のため。 |
| ④ 誕生日・バプテストマを迎えた方々。 | ⑪ 日本と世界の平和のため(パレスチナ、ウクライナ、香港、ミャンマー)。被災地のため。 |
| ⑤ 牧会伝道について考える礼拝(説教:西本牧師)／Sさんの召天日:10月28日 | ⑫ 困窮した生活を送っている人たち、孤独や
苦しみの中に置かれている人たちのため。 |
| ⑥ 「聖書を学び合う会」の活動のため。 | |
| ⑦ ひかり幼稚園の働きのため。 | |

《私の祈りのリクエスト》